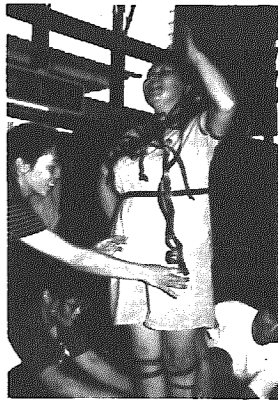


「トリムでいい汗」健康づくり教室スタート



笑顔が絶えないレク・ゲーム

「いい汗流そうノトリム」と題して、先月六日第一回健康づくり教室が成人病検診センターの大西金吾さんを迎えて公民館講堂で開かれました。

当日は軽い体操から始まり、いろいろなトリム体操が行われました。中でも、ジャンケンゲームでは参加者一同われを忘れて汗を流しました。最後には参加者がグループに分かれ紙テープをつかっつての王様づくりゲーム。みなさん童心にかえり、一生懸命工夫を凝らして右往左往、会場は、

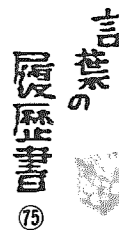
はじめから最後まで笑いの連続で顔の筋肉はゆるみっぱなしの一日でした。
ぜひ、みなさんのご家庭でも楽しいトリムで健康な汗を流しましょう。
さて、次回の健康づくり教室は、



まずはトリム運動で軽い汗を……

一回めと一味ちがう催しを計画しました。
「岩室村の郷土料理を知っていますか」と題して、みなさんの身近にある郷土料理を岩室村調理師会から講師を迎えて調理実習を予定しています。健康は「食」からともいいます。ぜひ、みなさん参加してみませんか。
日時 八月三十一日(水曜日)
午後一時から三時三十分
会場 岩室村公民館
二階 調理実習室
講師 岩室村調理師会会員のからから教えていただきます。

トンボ返り



秋空に群れ飛ぶトンボ(蜻蛉)は、二億年以上もの昔から地球上に生息する原始的な昆虫で、古くは「あきつ」と呼ばれました。秋つ虫(秋の昆虫)を略した言葉です。「トンボ」の語源については定説がありません。

「トンボ返り」は身体を空中で回転させる軽業で、もともとは奈良時代に始まる民俗芸能散楽の演技術の一つでした。

歌舞伎の立ち回りの「トンボ」もその流れで、主役がかかってゆく下回りの役者が投げ飛ばされる時トンボ返りをするのを「トンボを切る」といいます。

透明な二対の翅で勢いよく飛んでいたトンボが、急に方向を後ろに変えたりするところから、この言葉が生まれました。飯田蛇笏の俳句「いくもどり、つばさそよがす、あきつかな」は、そうしたトンボの生態を的確にとらえています。また「急用で大阪へトンボ返りで行ってきた」などのように、ある場所へ行ってすぐ戻ってくる時にも使われます。いずれにしても、はるかな歴史を背負った表現といえるでしょう。

あなたもパソコン博士に!? パソコン入門講座

初心者を対象に、パソコンの操作、ベーシック言語によるプログラミング講座が開かれます。

■対象…パソコンについては初心者で年齢が18歳以上の社会人 ■定員…40人 ■期間…9月26日・28日・30日/10月3日・5日・7日・12日・14日・21日・24日の計10回開催 ■時間…午後6時～9時 ■会場…県立吉田商業高校 ■費用…無料 ■申込み…県立吉田商業高校市民講座係(吉田町東町16番1号)へ

真夏のプレイボール 親子ソフトボール大会

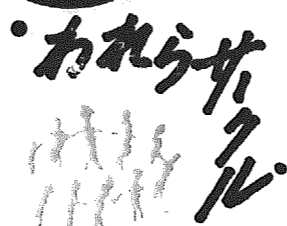
■とき…8月21日(日)午前8時(集合)雨の場合は翌週28日です ■会場…村民野球場と岩室中学校グラウンド ■チーム編成…母親5人、子供5人の10人編成 ■申込み…今月6日(日)までに岩室村公民館(☎82-4444)へ

大会前にまず練習 親子ソフトボール教室

■開催日と会場…8月3日(水)午後7時～9時—村民野球場/8月17日(水)午後7時～9時—岩室中学校グラウンド(雨の場合は中止) ■持ち物…グローブをお待ちください。

今月の納税

■村県民税 第2期
納期限は8月31日です



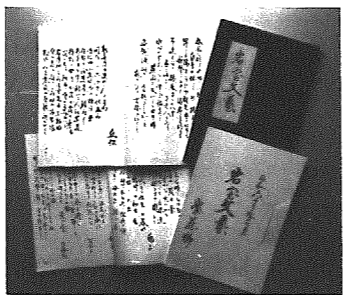
岩室文芸クラブ

俳句、短歌というと、私たちが本人には昔から親しみのある文芸ではないでしょうか。そんな俳句、短歌の好きな人たちの集まりである「岩室文芸クラブ」を今回はご紹介しましょう。

このクラブ——もとののはじまりはといえば、間瀬地区の俳句好きのおばあちゃんたち数人が集まりやっていたのが起源?ですが、も

っと多くの人たちからも参加してもらい、自分たちもさらに勉強したいという希望から、岩室、和納地区の愛好者にも呼びかけ、昭和五十四年に「岩室文芸クラブ」として結成されました。会員は増えたり減ったりで現在三十四人。年齢は六十代から八十代の人たちが多く、もちろん気心の知れた人たちの集まりです。

クラブが創部されて間もなく、つくるばかりでなく、発表する機会がないものか、と話が出て「それならば季刊紙を発行したらどう



年四回発行される季刊紙

か」ということになり、昭和五十四年五月に創刊「草分号」が発行されました。その後、年四回の季刊紙として、いまでも地道に続い

ています。

「私たちのクラブは、みんなが集まってつくるのではなく、各自が余暇を利用して、自分の身近なもの、体験したものなどを題材に書き残し、年四回の季刊紙発行時に持ち寄って編集作業を進めています。それに交流を深めるために毎回懇談会をやりますので、今ではみなさんすっかり親せきみたいな付き合いになりましたね。それに文芸クラブといっても愛好者の集まりですから、趣味の一つとして楽しんでやっています」と活動

素朴さが売り物

文芸はいいですよ。私たちのやっている俳句、短歌は、自分の余暇を利用して好きなもの、心に残ったものを残しておけます。それに私は、この文芸クラブで人と人との交流が図れることがなんといつてもうれしいですね。



【会員の声】
山田吉衛さん

これは、交流を深めることはもちろんですが、楽しい旅の思い出を作ってもらいながら創作活動にも活用してもらおうとやっているんですよ」と山田さん。

十年を祝うとともに、今までの活動をふり振り返りながら、さらに充実したクラブ活動を誓い合いました。「クラブができてから、もう十年もたちました。会員も増えたり減ったりしましたが、ここまで続いてきたのは皆さんの人柄でしょうかね。それと経費的にも負担をかけなかったことや、会員同士で作品のできを批評し合わなかったことが長続きの要因でしょうか。これからも、今までのように楽しい雰囲気の中で会が続いてくれればいいことはありませんね」と話す山田さん。

これは、交流を深めることはもちろんですが、楽しい旅の思い出を作ってもらいながら創作活動にも活用してもらおうとやっているんですよ」と山田さん。



和気あいあいの中で行われた10周年記念式典